

# 追跡レポート

## あの質問 どうなった？

議員の質問・提言に答える町執行部、その答弁がその後どうなったのか？ どう町政に反映させているのか、対応を追跡しました。

●平成20年12月定例会● 一般質問  
遠藤 智 議員

### 発達障がい児の受入態勢を整えよ

中学校における発達障がい児の指導について、受け入れるための施設や環境整備を教育行政としてどのように進めていくのですか。



#### 芦川教育長／適切な教育支援を行なっていきたい

中学校においては、現在、入級を希望する生徒がいないため、特別支援学級は設置されていません。

今後、入級の希望があった場合には生徒の能力や障がいの程度を把握し、学校全体として特別支援教育への関心と理解を深め、生徒1人ひとりの教育的ニーズに応じられるよう適切な教育支援を行っていききたいと考えています。



#### 中学校に「特別支援学級」を設置

特別支援教育の充実をはかり、1人ひとりの子どもの持てる力を高めることを目的として、4月から小学校に加えて中学校にも「特別支援学級」が設置されました。

また、町独自の取り組みとして、小・中学校それぞれに児童・生徒を補佐する支援員も配置されました。

# 7人の議員が町政を問う 一般質問席

一般質問は、公の場である議会で、議員が議題に関係なく、町長の考え方や町政の執行状況について事実の説明を求めたり、所信を問いただすものです。

一般質問席（広野町議会議場）



渡辺 久長 議員

## 土木費配分比率が高い理由は

山田町長／懸案事業の実施が集中した

**渡辺** 町長は、3月定例議会の施政方針で、平成22年度予算については、福祉・教育を中心に安全・安心・安全、豊で住みよい町づくりの実現に向け編成したとのべました。

**町長** 一般会計予算案において、土木費が大きな比率を占めていることは事実です。これは県営事業である県道広野・小高線の整備が急ピッチで進んでいることから、それに関連する町の事業が集中していることや、懸案であった町道下浅見川線の鍛冶屋前踏切の拡幅改良計画が、JR東日本のご配慮により急ぎよ実現可能となったこと等により予算計上をした結果です。一方、雇用状況の厳

しさと景気回復が実感できない中、公共土木事業はこれらの問題に対処する大きな役割が課せられているのも事実です。さらに地元商店の活用による地域経済におよぼす効果も大きなものがあります。これら状況を総合的に判断して、道路整備を含めた公共土木事業のあり方を再度検証し、事業計画の推進をはかっていきたいと考えています。



拡幅改良予定の踏切（広長地区）

### 職員研修を計画的に行なえ

塚越副町長／研修をもとに人材を育成する

**渡辺** 政権交代の流れの中、地方自治体にも新たな風が吹き始め、多様化する町民ニーズや社会情勢の変化に対応していくために、より高い組織力が求められています。

らに法政執務などの基礎能力や徴収率向上対策などの業務遂行能力研修に4人、交渉力養成やクレーム対応等の対人能力研修に2人、危機管理講座などに4人参加させる予定です。

職員の意識改革や能力開発は今後ますます重要になってきますが、新年度事業のスタートに当たり、どのような研修計画を立て、どの町民へ生かしていくのですか。

これらの研修をもとに、町民ニーズの変化、新たな時代の流れに対応して、当町の地域の特性を生かした施策を推進していくことができるよう政策形成能力や業務遂行能力を有する人材の育成に努めていきます。

**副町長** 平成22年度の研修参加者は、新規採用職員研修に3人、基本研修に7人、管理者研修に3人、さ